

アステム芦屋C棟_芦屋高浜松韻の街 地区防災計画（令和4年度更新）

防災基本編



令和5年（2023年）3月版

目次

1. 地区の概要

- 1.1 地区防災計画の目的
- 1.2 地区の被害想定

2. 津波避難について

2.1 垂直避難方法

- (1) アステム芦屋C棟の避難者受入れ条件
- (2) アステム芦屋C棟への避難時期と方法
- (3) 避難誘導係
- (4) アステム芦屋C棟共用階運用ルール
- (5) アステム芦屋C棟からの退避
- (6) 別途協議事項

2.2 水平避難方法

- (1) 避難場所、避難経路について
- (2) 一時避難施設と避難所（二次避難）

3. 地区防災計画の運用

- (1) 防災訓練の実施
- (2) 防災教育、人材育成
- (3) 計画の検証と見直し
- (4) 連携する地域自治会の拡大

参考資料

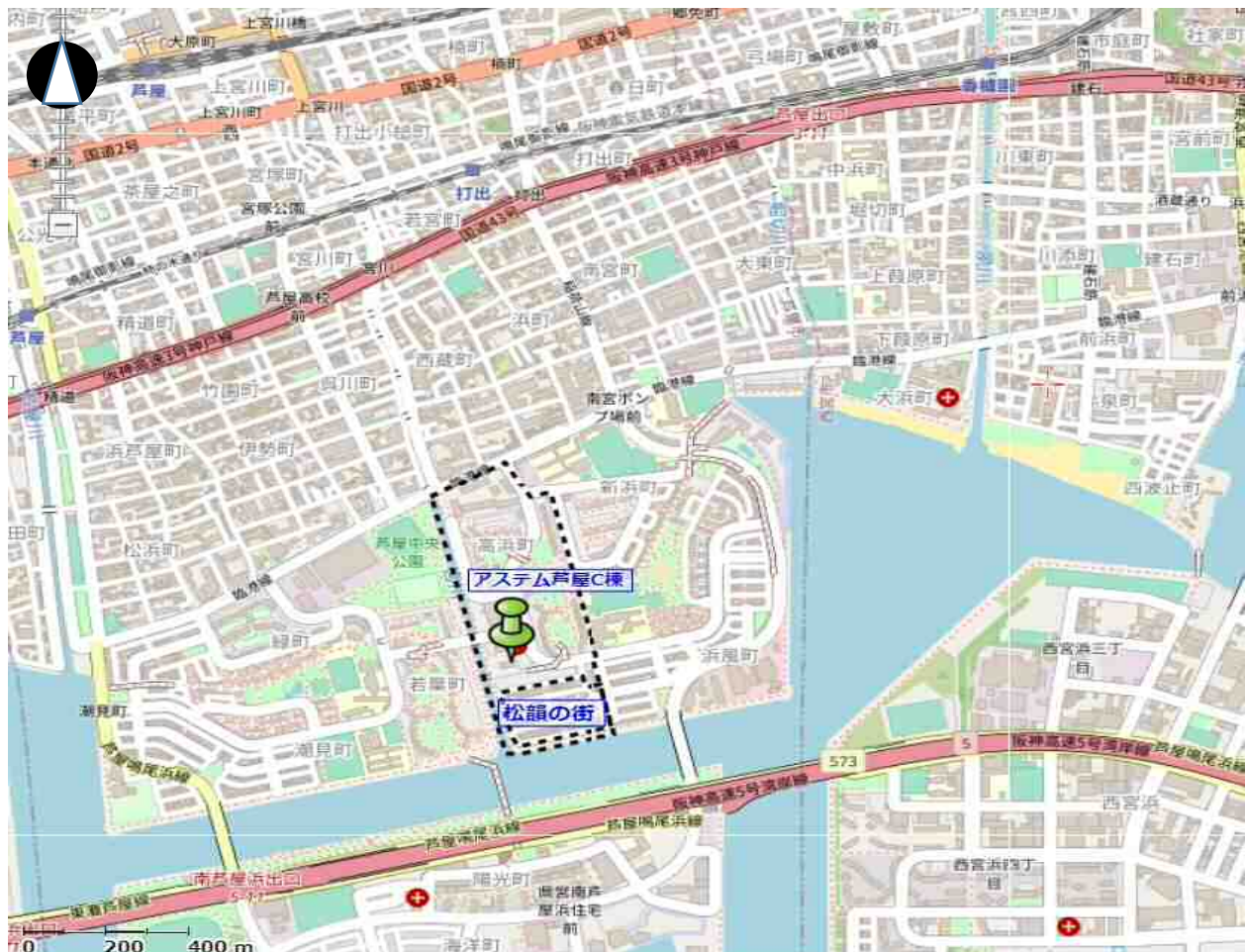
1. 地区の概要

高浜町は、1975年に宅地造成が完成し、1979年に「芦屋浜シーサイドタウン」として高層住宅が建設されました。その後、2007年には芦屋浜シーサイドタウン南側の高浜用地の宅地造成工事が完了し、「芦屋高浜松韻の街」として5月から分譲を開始しています。

2018年の台風21号では高潮被害が発生し、防波堤の嵩上げ工事が行われています。

しかし、近年の高潮時に防波堤を超える事象が発生すれば、松韻の街は浸水するため、北側に位置する「アステム芦屋C棟」への避難を検討しなければならない状況にあります。

高潮発生時以上に、南海トラフ地震発生時には津波が防波堤を越えて襲来する可能性が高く、高潮発生時以上に「アステム芦屋C棟」への避難を実施する必要があります。



1.1 地区防災計画の目的

アステム芦屋C棟__芦屋高浜松韻の街の地区防災計画の目標として災害時における目的（やるべきこと）と決めました。

南海トラフ巨大地震発生に伴う「津波」や、「火災」、「洪水」等の被害が想定されるこれらの災害発災時に、アステム芦屋C棟、芦屋高浜松韻の街の住民が協力し、被害を最小限に抑えます。



1.2 地区の被害想定

南海トラフは、日本列島が位置する大陸のプレートの下に、海洋プレートのフィリピン海プレートが南側から沈み込んでいる場所です。この沈み込みに伴い、2つのプレートの境界にはひずみが蓄積されています。

南海トラフでは約100～200年の間隔で蓄積されたひずみを解放する大地震が発生しており、近年では、昭和東南海地震及び昭和南海地震が起きてから70年近くが経過しており、次の大地震発生の可能性が高まってきています。

南海トラフ巨大地震発生時における芦屋市の被害想定では、最大震度6弱以上、津波高3m以上となっています。

(出典：芦屋市地域防災計画)



震災発生時の震度と津波高さは、
気象庁の速報を確認する。



2. 津波避難について

芦屋市高浜町地区の地形的条件から、南海トラフ巨大地震発災時には、震度7程度の揺れと同時に津波襲来の可能性があります。

併せて震度7以上では、高層棟・戸建て住宅共に損壊・倒壊・崩壊する可能性(最悪の事態の想定)があることから、全住民が建物から退去し水平避難しなければなりません。

①垂直避難 (アステム芦屋C棟共用部への避難)

②水平避難 (国道2号線以北への避難)



2.1 垂直避難方法

(1) アステム芦屋C棟の避難者受入れ条件

【前提条件】

地震による建物損壊が認められず、津波警報または大津波警報が発令された時に、アステム芦屋C棟共用階へ避難します。但し、建物に損傷がない場合に限りです。
震度5以上の地震発災後は、エレベーターは停止します。

【前提条件】

アステム芦屋C棟共用部における許容避難者数は、7階、12階を合わせて190名程度（総人口の43%程度）。
芦屋高浜松韻の街住民の避難希望者全員を収容できません。

【滞在可能時間】

気象庁が発令する大津波警報・津波警報・津波注意報すべての解除までとします。

(2) アステム芦屋C棟への避難時期と方法

【芦屋高浜松韻の街から避難開始のタイミング】

気象庁の大津波警報が発令後、直ちに避難行動を開始して下さい。

【アステム芦屋C棟共用階までの移動手段】

松韻の街からアステム芦屋C棟までは徒歩で移動し、共用階（7階、12階）へは階段避難を前提とします。

(3) 避難誘導係

【役割】

災害発生時に、避難誘導係が住民の避難を誘導します。

<詳細>

- ・ アステム芦屋C棟と芦屋高浜松韻の街双方から誘導係を選出
- ・ 誘導係の目印としてビブス&キャップを着用
- ・ 避難時に混乱を避けるために避難方向を誘導
- ・ 誘導係は20名程度（最大）選出予定
- ・ 防災訓練での結果を踏まえ、避難誘導係の配置と誘導方法等別途検討し、誘導訓練を実施

(4) アステム芦屋C棟共用階運営ルール

【アステム芦屋C棟共用階で備蓄しておくもの】

アステムC棟には、避難時使用する最低限のものを備蓄する。備蓄場所は共用部の倉庫とします。

備蓄品候補は以下の通り

- ・ 簡易トイレ・ペットボトル・ブルーシート・段ボール
- ・ マット・トイレットペーパー・消臭ダストパック
- ・ 保温シート

*備品候補と数量は継続検討し、管理組合・自治会双方で合意した備品とする。予算は、アステム芦屋C棟管理組合と芦屋高浜松韻の街の自治の会費で負担する。

【避難者が持参するもの】

避難者は、一時滞在時間を40時間程度と考え、アステム芦屋C棟の備蓄物を除き、各自必要と思われるものを災害時に持参して下さい。



(5) アステム芦屋C棟からの退避

【共用部からの退避】

大津波警報又は津波警報解除後、速やかにアステム芦屋C棟共用部を離れてください。滞在期限は2～3日までとするが、避難先・避難経路の安全が確保されない場合はこの限りではありません。

津波被害と地震被害の状況によりますが、避難所である浜風小学校、潮見中学校などが浸水した場合、臨港線以北・国道2号線以南が水没している可能性があり、高浜町周辺が島となり孤立する可能性があります。

浸水していない避難所または被害の少ない地域の避難所等へ避難するタイミングと避難方法も検討しておく必要があります。

(6) 別途協議項目

- ・アステム芦屋C棟共用階の避難者スペースの割り当て
(2㎡/一人を基準)
- ・共用階倉庫内仮設トイレ使用のルール作り
- ・ペット受け入れは、ケージに入れて避難する等のルール化

2.2 水平避難方法

(1) 避難場所、避難経路について

【想定される状況】

- ・ 近隣の浜風小学校、潮見中学校、潮見中学校は体育館が水没します。
- ・ 臨港線と国道2号線の間は標高が低く、ポンプが稼働するまでは水が引きません。
- ・ ライフラインが停止しており、電源が復旧するまでポンプ稼働できません。

【いつ避難するのか】

気象庁の大津波警報又は津波警報が発令された場合、直ちに避難行動を開始します。

【どこへ避難するのか】

浸水の影響が少ないと考えられるエリア（国道2号線以北）へ避難します。

国道2号線以北の避難場所に避難します。



(2) 一時避難施設と避難所（二次避難）

【芦屋市の国道2号線以北への避難】

国道2号線以北へ水平避難した場合、芦屋市が公式に一時避難施設及び避難所としてリストアップしている建物は、芦屋市津波防災情報マップ（全戸配布・2021年6月発行）を参照して下さい。

<https://www.city.ashiya.lg.jp/bousai/documents/tusnami.pdf>

「避難場所」と「避難所」の違いを知っていますか？

「避難場所」

火災などから身を守るため、一時的に逃げ込む先

例) 河川敷や大きい公園など、広いスペースが指定される

「避難所」

災害のため自宅で過ごすことが困難になった時、一定の期間、避難生活をする場所

例) 学校や公民館などが割り当てられる

<https://www.nhk.or.jp/kochi/bousai/bousaiichiban/article/49.html>



【避難の備え】

大規模災害発生時に自宅を離れる際には、電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉じ、その上で水平避難により国道2号線以北へ避難します。

水害の前に火災が発生することも想定されるため、住宅密集地を避け、バス通りを避難しましょう。

大規模災害発生時による停電で信号が停止する可能性が高く、車で避難すると渋滞が発生している場合があります。

【避難場所】

例えば、市内の小学校などへ避難する場合は、徒歩、自転車で避難する場合どれくらい時間がかかるのか、夜間に照明が切れている時にどのような目印があるのかを確認します。

芦屋市が配布している避難所リストを予め目を通しておき、災害発生時にはどこに逃げるか家族で決めておきましょう。

救命胴衣も防災グッズとしてでているので、生き残る方法を考えましょう。救命胴衣は防災用や釣り具用のガス式ではなく、船舶用常備用の発泡スチロール製が劣化せずリーズナブルです。

日頃からよく行く場所については、予めハザードマップでチェックしておきましょう。

【家族が落ち合う場所】

家族が分かる場所を予め具体的に決めておきましょう。

【家族との連絡手段】

携帯電話がつながる場合は、Web171、LINEを活用して安否確認を行います。

大規模災害時直後は通信回線が途絶える可能性が高いので、予め家族で落ち合う場所を決めておきましょう。

3. 地区防災計画の運用

(1) 合同防災訓練の実施

【防災訓練の目的】

- ・津波襲来時に安全に避難します。
- ・防災倉庫の資機材を円滑に使用するトレーニングを実施。
- ・地域住民間のコミュニケーションの向上を図ります。

【実施スケジュール】

- ・毎年定期的に合同防災訓練を開催します。
- ・3年後までにはシーサイド地区全体で二次避難まで考えた防災計画の立案と全体防災計画を踏まえた合同防災訓練を視野に入れます。

【実施内容】

- ・誘導係の訓練も含めたアステム芦屋C棟への垂直避難訓練を実施します。
- ・国道2号線以北等の避難場所へ避難するための水平避難訓練を実施します。
- ・防災倉庫資機材（バール、ジャッキ等）の内容、及び使用方法を確認するための防災訓練を実施します。
- ・合同炊き出し訓練を実施します。
- ・黄色いタオル、LINE、Google系アプリ等を活用した安否確認訓練を実施します。
- ・デジタル簡易無線機の使用熟練度を上げ、緊急時に無線機で連絡を取り合えるようにします。

(2) 防災教育、人材育成

【実施体制の確立】

毎年交代する役員への啓発活動と防災教育を実施します。防災士を中心にガイダンスを開き、地区防災計画の主旨と運用をレクチャーします。

住民向け防災講座（地理的条件、一時避難と二次避難、未整備事項が多い現実の説明等）を定期的に開催します。

これらを実施することにより、無関心層に対して「助けられる人」から「助ける人」に変えていきます。

芦屋市の防災士養成講座を活用して、防災人材の育成を図ります。

(3) 計画の検証と見直し

【計画の改善】

防災訓練等の結果を踏まえ、定期的に計画の検証・見直しを行います。

検証・見直しについては、防災士と自治会・管理組合の役員を中心に行う事とします。

検証については、毎年の訓練の内容を入れ替える、他地域と連携した訓練を実施する等、参加者を増やす計画を立てます。

計画内容を役員のみでの共有ではなく、地域住民に認めてもらうために情報発信します。

計画は、だれでも同じような行動ができるようになることを目指して立案します。

(4) 連携する地域自治会の拡大

現在、アステム芦屋C棟と松韻の街の合同で開催しておりますが、芦屋浜自治連合会やシーサイド東地区の各自治会を巻き込んで、浜風小学校の避難所開設を2025年を目途に地域で実施できるよう地域全体での活動として行きたい。

アステム芦屋C棟共用部における許容避難者数

避難人口は、短期（一時的）滞在時の一人当たりの面積2㎡として試算した場合、アステム芦屋C棟の人口35人（4階以下）、芦屋高浜松韻の街の推定人口400人、合計435人となります。

南海トラフ巨大地震が発生すると、エレベーターが非常停止（およそ震度5弱）します。

停止後は、メンテナンス会社の保全技術者が昇降路内の安全を確認してから再起動される。復旧までは相当の日数を要します。

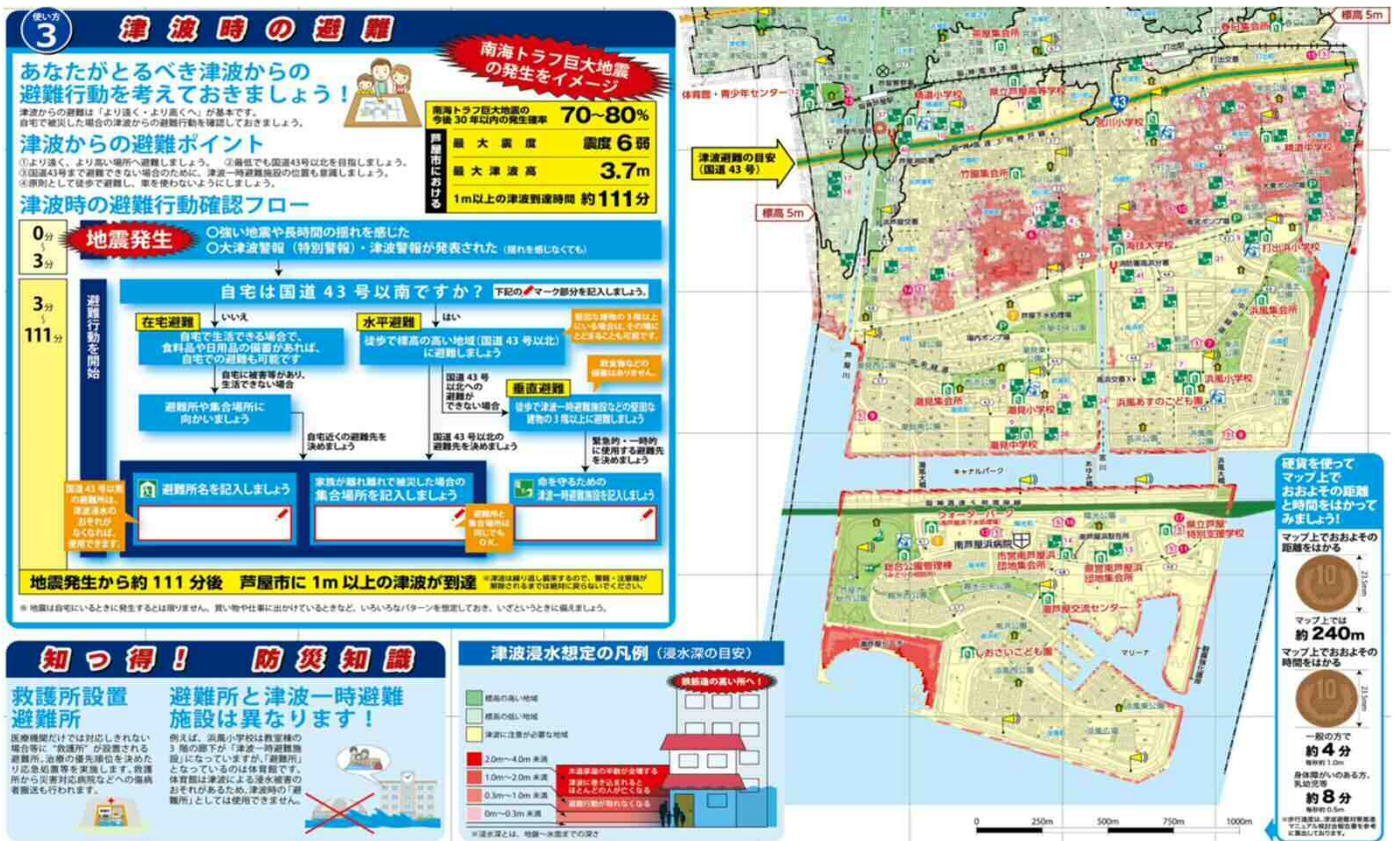
表1 アステム芦屋C棟共用階備蓄リスト（例）

備蓄品	数量	保存期間
ペットボトル		
簡易トイレ		
ブルーシート		
段ボール		
エアマット		
：		
：		

表2 地点別標高

地点	標高
JR芦屋駅北山手幹線大原中央交差点	14.3m
JR芦屋駅南セブンイレブン前	13.4m
国道2号線上宮川町西交差点	10.5m
国道43号線芦屋高校前交差点	3.7m
臨港線花水木通り中央公園前交差点	4.3m
シーサイド管理センター前交差点	4.8m

芦屋市津波防災情報マップ



芦屋市津波防災情報マップ

<https://www.city.ashiya.lg.jp/bousai/documents/tsunami.pdf>

国土交通省気象庁・南海トラフ地震で想定される震度や津波の高さ

<https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/nteq/assumption.html>

東日本大震災では、地震発生から津波注意報解除までは40時間程度を要している。

<https://www.scj.go.jp/ja/event/pdf2/140907c-3.pdf>

南海トラフ巨大地震発生後、芦屋市への津波到達時間は約111分。

芦屋市津波防災情報マップ

<https://www.city.ashiya.lg.jp/bousai/documents/tsunami.pdf>

町内会、マンションの備蓄品

https://mt-net.jp/list.php?c_id=44

日本赤十字社「非常時の持ち出し品・備品チェックリスト

<https://www.tokyo.jrc.or.jp/checklist.html>